

Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり

10 ヤクルトのサステナビリティ

- 19 環境活動報告
 - 21 環境マネジメント
 - 27 気候変動
 - 37 プラスチック容器包装
 - 42 水
 - 46 資源循環
 - 47 生物多様性

50 社会活動報告

- 51 イノベーション
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
 - 75 人材マネジメント
 - 78 人材育成
 - 80 健康経営
 - 83 ダイバーシティ&インクルージョン
 - 85 ワークライフバランス
 - 86 労働安全衛生
 - 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足

104 ガバナンス報告

- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

ヤクルト サステナビリティ行動計画

ヤクルトグループは、CSR基本方針に沿った活動を、実効性をもって進めていくため、「ヤクルトサステナビリティ行動計画*」を策定しています。ESGの分類で活動を体系化し、当社のマテリアリティおよびその他の重要テーマをもとに関連部署が具体的な行動計画を立案し、活動を進めています。

※ 2023年度までの名称は「ヤクルトCSR行動計画」

WEB ヤクルト CSR行動計画(2023年度活動結果)

https://www.yakult.co.jp/company/sustainability/download/pdf/csr_result_2023.pdf

WEB ヤクルト サステナビリティ行動計画(2024年度行動目標)

https://www.yakult.co.jp/company/sustainability/download/pdf/sustainability_target_2024.pdf

サステナビリティ意識の浸透

ヤクルトグループは、事業活動のすべてがサステナビリティ活動に直結すると考えています。全従事者が当活動の推進者となるよう、日々の事業活動すべてにサステナビリティを意識した行動を求めており、さまざまなアプローチで意識の浸透を図っています。

● サステナビリティ研修の推進

新入社員研修、階層別研修等で、サステナビリティについて学び考える機会を多く設けています。ヤクルトグループのサステナビリティ活動の紹介や取り組み意義、近年のサステナビリティトレンド等を学ぶ内容となっています。

また、全社員を対象にeラーニングを使用したサステナビリティ研修を実施しています。

2023年度は、グループ内の従業員に向けて、環境教育研修の一環として、環境マテリアリティである「気候変動」「プラスチック容器包装」の2テーマに関する基礎知識が学べる動画配信およびeラーニングを実施し、サステナビリティに関する意識啓発と理解醸成を行いました。本社社員の受講率は「気候変動」が95.1%、「プラスチック容器包装」が90.5%でした。

● ヤクルトサステナビリティキャンペーン

1994年度から、ヤクルトグループ全従事者向けの「ヤクルトサステナビリティキャンペーン」(2021年度までの名称は「ヤクルトCSRキャンペーン」)を実施しています。2023年度は、2022年度のキャンペーンで策定した“グループみんなのサステナビリティ行動宣言”である「人と地球のために、今行動しよう!」をテーマとして、森林保全に関する活動を実施しました。

ヤクルトグループ内の各拠点単位で森林保全に関連する具体的な取り組み目標である“森林保全宣言”を募集したところ、162拠点が参加し、合計39,359人が目標を達成しました。達成者1人につき100円に換算し、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)に3,935,900円を寄付しました。この寄付金は、同団体における森林保全活動に活用されます。また、公益財団法人オイスカの「子供の森」計画への寄付、「環境アクション(2021-2024)」の取り組みの一環として工場等での植樹活動もあわせて実施しました。



キャンペーン告知ポスター

結果報告ポスター

● サステナブルメニュー

本店社員食堂において、従事者の環境意識啓発を目的に「みんなで食べよう!サステナブルメニュー」と題して、人と地球の健康に配慮した特別メニューイベントを年2回(6月、1月)実施しました。対象期間中は、株式会社ヤクルト・マネジメント・サービスの管理栄養士が考案した「大豆ミート」「ブルーシーフード」「地域の旬の野菜(地産地消)」などを使用した、サステナブルメニューを毎日1種類提供し、利用された食数に応じて、自然保護団体である公益財団法人国際緑化推進センター(JIFPRO)に1万7,100円を会社から寄付しました。



サステナブルメニューの一例「食べ比べハンバーグ(大豆ミート&肉)」

マテリアリティ(重要課題)の特定

ヤクルトグループは、コーポレートスローガン「人も地球も健康に!」のもと、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献するという私たちの使命を実現するべく、「サステナビリティを高めるための6つのマテリアリティ(重要課題)」を特定しています。

Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり

10 ヤクルトのサステナビリティ

19 環境活動報告

- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性

50 社会活動報告

- 51 イノベーション
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足

104 ガバナンス報告

- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

特定にあたっては部門を横断した検討ワーキンググループを立ちあげ、「環境」「社会」「ガバナンス」「事業」の観点から項目をリストアップして、「ヤクルトグループにとっての影響度」と「地球と社会の持続可能性にとっての重要度」の2軸でマッピングし、各軸を「極めて重要」「重要」「中庸」に区分してマトリクス分析を進めました。IPCC*1やWEF*2等の報告書も参考にし、さらには株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所のご協力も得ながら議論した結果、ヤクルトグループにとっても人と地球の持続可能性にとっても極めて重要と考えられる6つを特定しました。

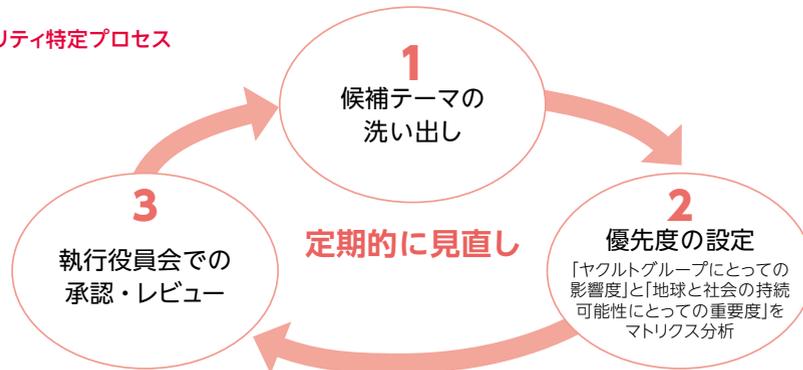


6つのマテリアリティをもとに、戦略および計画を策定しながら、企業理念および「人と地球の共生社会」の実現を推進し、ヤクルトグループのみならず、地球や社会の持続可能性を高めていきます。また、変化する社会に対応するため、ステークホルダーの意見も伺いながら、マテリアリティを定期的に見直していくことも検討します。

*1 IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change(気候変動に関する政府間パネル)。5~6年ごとに気候変動に関する評価報告書を公表している。2018年に発表された「1.5℃特別報告書」では、現在より気温が2℃上昇した場合の影響を報告し、現在より1.5℃未満の上昇に抑える重要性が指摘された。

*2 WEF: The World Economic Forum (世界経済フォーラム)

マテリアリティ特定プロセス



● サステナビリティを高めるための6つのマテリアリティ

コーポレートスローガン「人も地球も健康に」を実現し、サステナビリティを高めていくために、バリューチェーンで優先して取り組むべき課題として、社会側面は「イノベーション」「地域社会との共生」「サプライチェーンマネジメント」を特定しました。また環境側面では、気候変動シナリオ分析、水リスク分析等も実施し、「気候変動」「プラスチック容器包装」「水」を特定しました。

サステナビリティを高めるための6つのマテリアリティ

イノベーション

ヘルスケアカンパニーへの進化、菌の科学性の追究、新商品・サービスの提供、資源の有効活用 等

▶ P.51

地域社会との共生

地域に密着したつながり、健康情報のお届け、「安全・安心」な健康商品の提供 等

▶ P.57

サプライチェーンマネジメント

取引先との健全なつながり、サステナブル調達への推進、原材料の安定調達 等

▶ P.64

気候変動

温室効果ガス排出量削減(脱炭素)、再生可能エネルギーの積極的導入、省エネ活動への取り組み 等

▶ P.27

プラスチック容器包装

資源循環できる容器包装への転換、容器包装の素材変更による環境負荷低減 等

▶ P.37

水

持続可能な水資源の使用、水使用量削減への取り組み 等

▶ P.42

Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり

10 ヤクルトのサステナビリティ

19 環境活動報告

- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性

50 社会活動報告

- 51 イノベーション
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
 - 75 人材マネジメント
 - 78 人材育成
 - 80 健康経営
 - 83 ダイバーシティ&インクルージョン
 - 85 ワークライフバランス
 - 86 労働安全衛生
 - 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足

104 ガバナンス報告

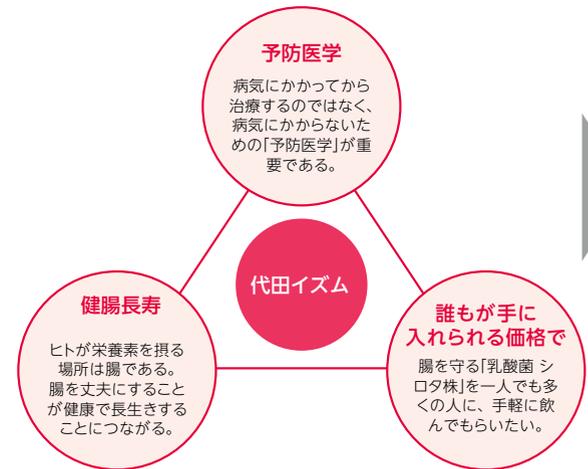
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

ヤクルトグループのSDGsへの考え方

健康への情熱・発想は、「世界の人々の健康を守りたい」という創業時の精神にさかのぼります。ヤクルトは、「私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します。」という企業理念のもと事業活動を行っており、事業活動そのものがSDGs17目標の「3 すべての人に健康と福祉を」に貢献していると考えます。

ヤクルトの創始者である代田 稔が医学の道を歩みだしたのは1921年。当時の日本は、衛生状態の悪さから感染症で命を落とす子どもたちが数多くいました。このような環境の中、代田は、病気にかかってから治療するのではなく、病気にかからないようにする「予防医学」を志し、微生物の研究を重ね、「乳酸菌 シロタ株」を生み出しました。そして、この乳酸菌を一人でも多くの人に摂取してもらうため、有志とともに安価でおいしい乳酸菌飲料として製品化、現在の「ヤクルト」が誕生しました。

ヤクルトの商品は、店頭での販売のほか、創業以来、「宅配」という方法でお届けしています。この「宅配」は商品をお届けするだけでなく、「予防医学」「健腸長寿」の考え方を「普及」していくことや、「真心」「感謝」「人の和」を大切にするといった代田の基本的な考えに根差しています。



SDGsは地球の限界を超えないよう、また貧困をなくし、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指している。



ヤクルトの理念・事業活動はSDGsの考え方、特に目標3と合致している。

マテリアリティを通じたSDGsへの貢献

ヤクルトグループの企業活動はSDGs17目標の達成に広くかかわりますが、マテリアリティを踏まえ、ヤクルトグループと特にかかわりが深いSDGs目標は以下の8つと捉えています。今後も、ヤクルトグループ一体となって、SDGs達成に向けた貢献を推進していきます。



Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

マテリアリティとSDGsの関係性



イノベーション



世界の人々の健康に貢献する、という使命を胸に、これまで培ってきた乳酸菌や有用微生物の研究成果の活用や、外部リソースとの協働による新しい可能性の追求を継続し、健康課題や社会課題の解決につながる商品やサービスを展開していきます。



地域社会との共生



事業を展開するそれぞれの地域の文化や慣習を尊重し、「安全・安心」で健康な地域づくりに貢献するとともに、地域特有の社会課題に対しても、地域の皆さまとの対話を重ねながら、課題解決に向けて積極的に取り組んでいきます。



サプライチェーンマネジメント



「安全・安心」で高品質な商品づくりは、持続可能なサプライチェーンの存在がなければ成り立ちません。人権、労働、環境、腐敗防止といった企業の社会的責任を、サプライチェーンで具体的アクションとして見える化しながら、推進していきます。



気候変動



資源の枯渇や自然災害等、気候変動に伴うさまざまな問題に対して、さらなる省エネ推進や再生可能エネルギーの積極的導入等を行うとともに、サプライチェーン全体で温室効果ガス排出量を削減していきます。



プラスチック容器包装



プラスチックごみや資源リサイクル等の問題に対して、容器包装へのプラスチック使用量削減や資源循環しやすい素材への転換を図るほか、生産工程で使用するプラスチック製梱包材の再利用等を推進していきます。



水



水需給の不均衡や水災害の発生等の問題に対して、生産拠点の水リスクに対応する管理を行い、水使用量の削減に向けて取り組むとともに、水資源の保全および持続的利用を推進していきます。

SDGs意識の浸透のために

SDGsの本質を理解し、自分ごととして捉えてもらうために、従事者に対する啓発活動を継続的に実施しています。

2018年には、ヤクルトグループの事業の各段階における活動とSDGsとの関連性を示したポスターを、日本語、英語、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、韓国語、タイ語、インドネシア語、スペイン語、ポルトガル語の9言語で作成しました。

また、2020年4月に改定した「ヤクルト倫理綱領・行動規準」では、行動規準の各項目に関連するSDGsを記載しました。事業活動を正しく行ううえでの考え方や行動の実践が、ヤクルトグループに求められるCSRにつながり、SDGsの達成にも貢献することを伝えています。

さらに、1994年から毎年、全社統一キャンペーンである「ヤクルトサステナビリティキャンペーン」を実施しており、グループ従事者におけるサステナビリティ・SDGs意識を醸成しています。